

された」と報じました。世界最大の総合化学メーカーのBASF(本社:ドイツ)の日本法人による違反です。

この問題で、2つの大きな事実が白日の下となりました。第1に、山口県の武田薬品の光工場の生産終了で「ビタミン類の国内生産ゼロ」という事実です。国内で小分け・製剤化を行う品目もありますので「国内生産」というイメージですが、実際は食品・医薬品で使用されるビタミンA、B群、C、D、E、……全てのビタミン類の原体(原薬)は輸入に依存しています。例えば、年間10,000~11,000トンのビタミンCが使用されていますが、その全量(中国品95%、英国品5%推定)が輸入です。しかも、圧倒的なシェアの中国での生産調整により価格もコントロールされています。ビタミンB₂も2003年頃、飼料用の需要増大により世界的な需給の切迫がありました。環境問題という不安定要因もあります。このように、国民の疾病防止や健康回復に必要なビタミン類の全量を海外に依存してよいのでしょうか。(文末の表を参照)

第2に、遺伝子組換え操作のような食の安全、あるいは消費者の選択の権利を保障するシステムであるトレーサビリティに障害があるという事実です。輸入者が厚労省に審査を申し出なければ、未審査の品目でも検疫所を通過し、国内で流通します。厚労省は、海外生産の現場の監視を全く行っていません。

こうした中で、未承認のビタミンC、ビタミンB₁₂、ビタミンD₃が流通している可能性もあります。中国の工学系の教科書には二段階醗酵法(D-ソルビトールからL-ソルボースを経てL-アスコルビン酸を製造)が記載されています。酢酸菌の一種である「*Acetobacter suboxyclans* *Acetobacter melangenum*」を併用しますが、これらが組換えられている可能性があるのです。また、ビタミンB₁₂の約10年前の「Product information」に、遺伝子組換え体を使用して得られたものであると記載されていました。ビタミンD₃の生産も遺伝子組換え体(セルフクロニング)を利用している可能性があります。

厚労省や消費者庁はこの問題にしっかりと取り組んでほしいと思います。

(鈴鹿医療科学大学薬学部客員教授 中村幹雄)

ビタミン	主な輸入先(著者の推定)
A(β-カロテン)	BASF、DSM
B ₂ (リボフラビン)	BASF、DSM、中国企業
C(アスコルビン酸)	中国企業、DSM(英国工場)
D ₃ (コレカルシフェロール)	DSM、BASF
E(トコフェロール)	中国企業

DSM(本社:オランダ):ロッシュ(スイス)のビタミン部門買収

トピックス②

ビタミン類、国内生産「ゼロ」

昨年12月22日、厚労省は、「食品衛生法第11条第1項に基づく(中略)安全性審査を経ていなかった遺伝子組換え微生物を利用した添加物『リボフラビン(ビタミンB₂)』と『キシラナーゼ』が確認

[12]